



日本の近現代の住宅や建築、都市風景の成り立ちを、生活、経済、地域、技術、娯楽などとの関連から総合的に分析します。

略歴

1995年 東京工業大学工学部建築学科卒業、
2000年 同大学院総合理工学研究科人間環境システム専攻博士後期課程修了、2001～2017年 文化女子大学造形学部住環境学科（文化学園大学造形学部建築・インテリア学科）専任講師、准教授を経て2017年～現職。博士（工学）。

所属学会

日本建築学会
日本都市計画学会
日本生活学会
日本生活文化史学会
日本産業技術史学会

研究紹介

施設の成立 や 住環境の変化 に関する研究

戦前における近代遊園地の成立について：

日本を代表する近代の遊園地として発達した宝塚新温泉は、宝塚少女歌劇が担う女性像やそれに象徴される社会の方向性や娯楽の概念をその空間に展開したこと、そして、そのあり方を多くの施設が模倣して、近代遊園地が成立した過程を明らかにしています。

近代日本における建築材料の発達史：

建築や空間の変化を考察するには、材料の視点も重要です。特に近代は、様々な新材料が開発されました。鉄やコンクリートは良く言及されますが、煉瓦と鉄筋コンクリートの混構造、繊維板、人造石などの開発や普及についても明らかにしました。

戦前における便所設備の改良過程：

住宅における近代化の重要な側面のひとつに、水まわりの衛生化があります。研究では、屎尿や汚水を貯める便槽部分が、衛生状態を保持し、浄化性能を発揮するよう改良されていく過程を様々な文献を精査することから明らかにしています。

浦和・大宮の住宅地化に関する研究：

東京近郊の宅地化は武蔵野など西郊で先行しますが、大宮台地でも大正頃から主に耕地整理を準用して進みます。これまでは一部しか明らかでなかったその全体像を、公文書館所蔵史料から明らかにしました。また、地区内に遺っていたアトリエ付住宅の文化財的価値を示しました。

共同研究の事例

近代日本における公共施設の鉄筋コンクリート造化に関する建築史的研究

同潤会における木造分譲住宅事業に関する基礎的研究 -遺構調査を中心として-

技術革新が家庭生活に与えた影響に関する研究 -「台所」を中心として-

主な研究発表

「浦和鹿島台に建てられた奥瀬英三郎の竣工当時の意匠について」日本建築学会大会学術講演梗概集 建築歴史・意匠 2024-08

「大正・昭和期の都市上中流住宅における水まわり空間の変容過程:吉田五十八による住宅作品に関する図面史料の分析を通して」住総研研究論文集 43号 2017（共著）

「明治末から昭和初期における宝塚新温泉の経営方針の形成について」日本建築学会計画系論文集 702号 2014